



平成21年度全国学力・学習状況調査の結果について、お知らせします

1 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の実施日 平成21年4月21日（火）

3 調査実施学校数（公立学校）等

区 分	調査実施校数（校）			調査実施者数（人）			
	国	県	市	国	県	市	学校
小学校第6学年	21,482	545	140	1,137,844	26,002	10,870	—
中学校第3学年	9,851	247	64	1,033,909	23,033	9,025	

4 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語，算数・数学）

主として知識に関する問題〔A問題〕

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題〔B問題〕

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 各教科の平均正答率

【小学校】

国語								算数							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
69.9	72.9	71.9	—	50.5	53.8	53.2	—	78.7	81.3	80.7	—	54.8	56.6	57.1	—

【中学校】

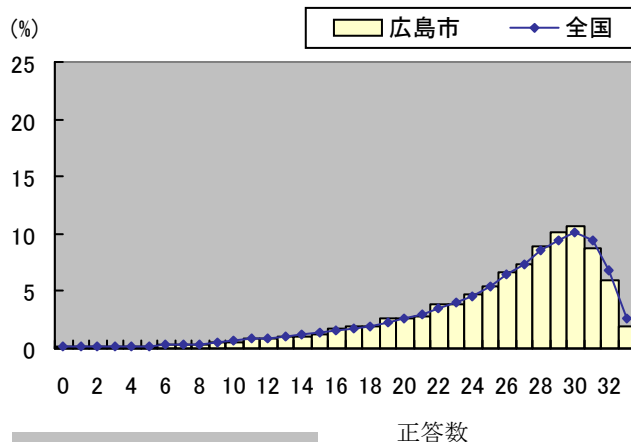
国語								数学							
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
77.0	77.6	76.6	74.4	74.5	74.8	73.7	71.2	62.7	62.9	62.3	61.7	56.9	56.2	55.1	54.4

6 各教科の調査結果の概要

【中学校国語】

国語 A

【正答数の分布状況】

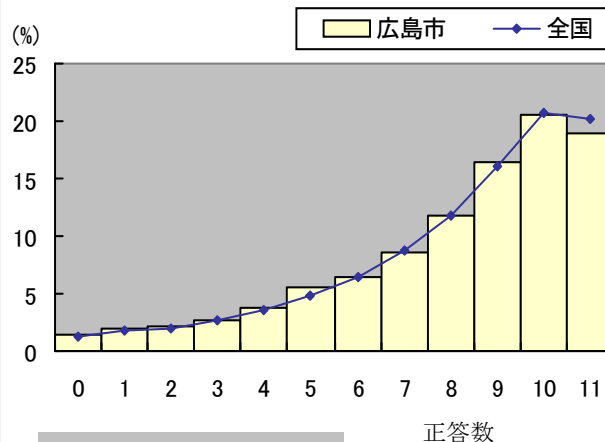


【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	86.8	86.5	84.9
書くこと	64.6	64.8	62.3
読むこと	75.7	75.2	72.5
言語事項	76.0	75.6	73.4

国語 B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	—	—	—
書くこと	72.5	71.5	67.2
読むこと	74.5	73.7	71.2
言語事項	—	—	—

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	76.0	75.8	75.2
短答式	78.4	77.7	73.2
記述式	—	—	—

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	70.2	69.9	70.2
短答式	82.0	81.0	79.1
記述式	72.5	71.5	67.2

定着状況

○国語Aでは「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が高い。「書くこと」は、問題の意図や条件にそった回答になっていないため、正答率が低くなっている。

○国語Bでも「書くこと」、「読むこと」ともに平均正答率は全国、市を下回った。中でも小見出しや要約を記述する設問の正答率が低い。

課題

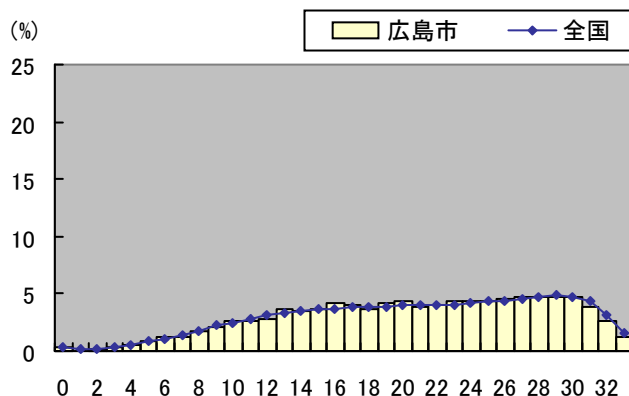
○「話すこと、聞くこと」、「行書の基本」等高い正答率の一方で、主語・述語の適合や歴史的仮名遣い句切れ等の基礎知識が定着していない。

○自分の考えを書く力はあるが、文章から必要な情報を読み取って簡潔にまとめて書く力をつける必要がある。また、資料の図を読み取る力

【中学校数学】

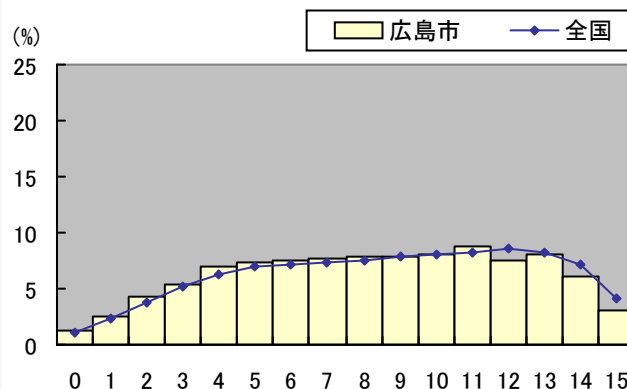
数学A

【正答数の分布状況】



数学B

【正答数の分布状況】



【問題形式による定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と式	67.3	66.7	64.9
図形	64.6	64.4	63.9
数量関係	56.2	55.8	56.3

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	61.6	59.8	57.7
短答式	70.3	69.8	70.1
記述式	40.6	37.7	38.0

【問題形式による定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と式	61.4	58.5	57.7
図形	57.5	56.1	55.7
数量関係	54.1	52.4	51.6

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	60.5	60.2	60.2
短答式	66.1	65.5	64.0
記述式	—	—	—

定着状況

○数学A（基礎基本）では、図形と数量の領域については全国平均並で、基本的な学力は定着していると思われる。数と式の領域では課題があった。

○数学B（活用）では、図形の領域での応用力に課題がある。また全領域で記述式の問題に課題があった。

課題

○数と式については、引き続き計算練習を繰り返していき、定着を目指す。図形と数量の領域では基礎の復習をしっかりとする必要がある。

○活用では図形・数量関係の分野において基本の復習を入れながら、授業をすすめていく必要がある。いろいろな問題を提示し、記述式の問題にも対応できる力をつける必要がある。